

# 教科の壁をこえて 生きる力を引き出す 課題研究



受講者が、事前の授業で参加したい講座を相談し、最終的に「ツールでアクセサリー作り」に決まり、当日は、みんな楽しく作業に取り組んだ。担当の村手先生は「さすが、みんな3年生。自分の希望が叶わなくとも、不満を言わず、この学習の意味を理解して参加していた。」と、生徒の前向きな姿勢を称えていた。



## 《第5領域》 『消費者のための基礎講座』 ～自分で申込みしよう！

6月1日(金)1・2限の課題研究「消費者のための基礎講座」は「自分で申込みしよう！」と題し、木曾三川公園での体験工房へ。  
「消費者のための基礎講座なのに、物作りって変じゃない？」  
確かに、その体験だけを見れば、授業とは関係ないような…。でも、ここには大きな意味が。  
社会に出れば、文化サークルなどの勧誘が沢山ある。そんな時、興味もあるが申込みの方法が分からないとか、心配になることがある。そこで、この講座で「実際に自分たちで申込みをして参加してみよう！」となった。  
受講者が、事前の授業で参加したい講座を相談し、最終的に「ツールでアクセサリー作り」に決まり、当日は、みんな楽しく作業に取り組んだ。担当の村手先生は「さすが、みんな3年生。自分の希望が叶わなくとも、不満を言わず、この学習の意味を理解して参加していた。」と、生徒の前向きな姿勢を称えていた。

## 《第1領域》 『生活の中の環境問題』 ～無添加のバター作り

物理実験室では、『生活の中の環境問題』講座で、今・地球が危ないと題して食品添加物の学習を行っていた。  
今回は、「無添加のバター作り」に挑戦。生クリーム(動物性乳脂肪)100ccをビンに入れ、こぼれない様に左右に振る。10分前後、続けると黄色の固体と液体に分離する。固体がバターで液体がバターミルク。バターは冷水を入れ濁りを洗い出し、スプーンで水分を押し出したら出来上がり。それをパンにつけて試食するが、塩ありと塩なしで食べ比べる。  
説明が終わり準備された

### 次回の授業は！

- 《第1領域》環境  
『自然の中の人間』  
環境問題を考える上で、世界にどんな国があるかを調べ、まとめて発表する。
- 『生活の中の環境問題』  
食品に使われている人口着色料でも糸が染まることを実験から学ぶ。
- 『生と性』  
そば芽をとり、消毒剤をまき、苗の手入れをする。

ものを受け取った生徒たちは分担を決め、早々に生クリームが入ったビンを振り始めた。運悪くもれた班もあったが、真剣に無言で振り続ける。意外と単調な動作に疲れた生徒が、「工場では、どの様な機械が使われているのかな」と小声で呟っていた。  
数分間、交代しながら続けると説明通り固体が出現。「もう少し振った方が良い」とアドバイスを受け、完成品に。  
分離した液体をコップに入れ、「美味しくないのでバターミルクを飲んでも良いよ」の一言に、恐る恐る口をつけた生徒が、「意外とおいしい。甘さ控えめでサツパリしている。」と誇らしげに発言。この一言に他の生徒もチャレンジ。  
その間に、先生がバター

の濁りを冷水で洗い、塩とパンを配る。各班のテーブルに、いつでも食べられる準備が完了。しかしどの班も食べようとはしない。何度か「食べていいよ」の声を聞くと、ようやく、なかなか手が出ない。ある班は、パンにバターを塗り4人が同時に「せーの」の掛け声で口の中に押し込む。意外と美味しいことにビックリ。ここからは堰が切れた如く試食が始まる。余分なパンも遠慮しながらも代わり。ここからは、緊張も解れ和やかなムードとなった。  
売られている商品は、腐らないように添加物が入っており、塩が加えてあることを聞きながら食べ比べて意外にも「塩なしはさっぱり味、塩ありはいつも食べているバターの味がした。」

### 《第2領域》人間・生命

- 『メンタルトレーニング』  
「テニスボール積み」を通して集中力を高め、コツをつかむ。
- 『老人を考える老人と福祉』  
老人(高齢者)の部屋をきれいに飾るために、カレンダーや飾りをつくる。
- 《第3領域》平和・国際理解  
『地球平和』  
電気パン・ベっこうあめを作り、昔の生活を体感する。

### 《第4領域》情報・表現

- 『自己表現』  
現在の自分や将来の夢を、ペーパーや雑誌、広告などを使って、ドリームマップを作成して表現する。
- 『情報表現』  
①デジタル画像処理の基本を学習して、挨拶状「暑中お見舞い」をつくる。

### 《第5領域》生活・労働

- 『消費者のための基礎講座』  
節約料理作りに向けてグループ作りと役割分担を決める。
- 『身近な法律を知ろう』  
過去問題を解き、「行列のできる法律相談所」を視聴し、事例解決をする。



「美味しく食べて過ぎちゃった」「こんなに簡単にできるとは」と様々であった。